

栗野・徒然日記

五帖の式・春

令和二年十一月から綴り始めた「栗野・徒然日記」を、**春(三〇五月)**、**夏(六〇八月)**、**秋(九〇十一月)**、**冬(十二〇二月)**の季節ごとに再編集しました。
栗野の四季折々と日常をつれづれなるままに。

それでは一筆!!

2025.3.9 青い山脈



「雨に濡れてる焼け跡の 名も無い花もふり仰ぐ・・・」。「青い山脈」の3番の歌詞です。
雨上がり、遠くの山が青く輝き、雲が湧き出ています。

2月19日発生した大船渡市の山林火災は、平成以降、最悪の被害面積に拡大、2900ヘクタールが消失しました。久方ぶりの降雨のおかげで、ようやく火の勢いは弱まり、9日に鎮火しました。

以前、栗野西の墓地横の枯れ草が燃えて、消防が駆けつけたことがありました。原因は定かではありませんが、お墓のロウソクをカラスがくわえて運び、火がつくことがあるそうです。

1月7日から31日にかけてのロサンゼルス山火事は、約9500haを消失したと言います。

岐阜市でも、過去に山火事を経験しています。平成14年4月5日に芥見7丁目付近で発生した岐阜市東部・各務原市林野火災は、岐阜県での過去最大規模の410haほどを焼失しました。岐阜市役所にも災害対策本部が設置され、幸い翌日に鎮火しました。出火原因は不明ですが、タバコのポイ捨ても疑われました(そもそもタバコの吸殻を捨てるのは、軽犯罪法に違反です。信じられないことですが、いまだに、路上に吸い殻のポイ捨てが絶えません)。

湿度の少ないこの時期、火災予防にはくれぐれも気を付けたいものです。

話は戻りますが、緑色の山が、なぜ青く見えるのでしょうか？

遠くの山ほど、見る人との間の空気が沢山あるため、太陽光を浴びた空気のかすかな青色が影響するのだそうです。【写真は、3月3日に撮影・・・北東に見える標高1,000mほどの山・・・瓢箪岳(ふくべがたけ)でしょうか】

2025.3.20 老いてなほ 花をつけるや 枝垂れ梅



少し遅めの枝垂れ梅が咲き始めたのが3月初旬の10日頃から、中旬には満開を迎え、ここ数日間の寒さのお陰で、今日もまだ、薄紅色の花弁をしっかりと保っています。(Nさん投稿)

2025.3.22 厳しさも 乗り越え暫(しば)し 紅き梅



Nさんの3月20日の日記、しだれ梅が見事に咲きましたね。例年よりは遅めの開花のようです。

我が家の梅も、ようやく満開です。年によっては、年末から花が膨らみ始める早咲きの鹿児島紅梅なのですが、今年はずいぶん開花が遅れました。サンシイの木も、隣で黄色の花を咲かせています。

長かった冬も、ようやく終わり、来週は、一気に暖かくなりそうです。

梅は咲いたか桜はまだかいな...

2025.3.26 高い!! 低い!!

夏は猛暑、冬は鳥インフルエンザの影響で、卵の価格は高値で推移したまま【3月20日で、税込み300円前後】。輸入に頼る飼料も、ウクライナ戦争などにより値段が上がった。半世紀前から、物価の優等生と言われてきた卵も、価格高騰は避けられない。国産品を原料とする代替飼料の開発が欠かせない。EUやニュージーランドなどでは、動物福祉の観点から、ゲージ飼いが禁止されている。我が国も今後、飼い方や生産者の減少などにより、さらに値段が跳ね上がることを予感させる。消費者の理解も必要だ。1,000円以上の高い物で、98円の卵1パックが変えた時代には、もう戻れない。



エネルギー資源の少ない日本、2年前には1リットル150円台だったガソリン価格は180円が常態化している。

エネルギー資源とともに、我が国の安全保障に欠かせない食料自給率。昭和40年度に73%（カロリーベース）は、令和4年度には38%まで低下。家畜飼料の大半が輸入に頼ることを踏まえれば、ひいき目の数字かも知れない。このうち、米の自給率は、97%。何のことはない日本人の消費量が落ちたためでしかない（昭和37年度118.3kg/年・人が令和3年度51.5kg）。その米が市場に出回らない。政府はようやく備蓄米の放出のため3月10日に入札を開始、26日に2回目の入札を行った。しかし、米の価格はまるで下がらない。とあるスーパーの棚からは最近、10kg入りの袋が消えた。米不足の際は売れた大袋も、量は確保されたことを見越した消費者が、今度は高すぎて、買わないからだろう。

さて、食品ロスは、年間472万トン（令和4年度）。消費者庁は、賞味期限を必要以上に短く設定しないことなどを求めるガイドラインの改正案をまとめ、食品ロスの削減につなげたいとしている。食料自給率の改善につながるわけではない。

いずれにしても、消費者で解決できることは限られている。物価、エネルギー、食糧自給率の抜本的な解決は、いずれをとっても国政に求められる喫緊の課題なのだ。



▲レギュラーガソリンの価格は、会員 178 円、一般 183 円【3月17日】



▲10kg7,500円なら安い?!【3月15日】

2025.3.27 光る川



▲がんばれ!! 映画館、がんばれ!! シネマコンプレックス

2月4日の日記でも紹介した、岐阜市出身の作家・松田悠八さんの「長良川スタンドバイミー 1950」を原作とする映画「光る川」を鑑賞してきました。ゆったりと流れる時間軸、一方で、時空を超えた物語の展開は、不思議な感覚を味あわせてくれました。

もっとも、原作の姿かたちはみじんもありませんでしたが、川に対する畏敬と哀愁の念は、いずれの作品にも共通して流れています。

観客数の少ないのは残念ですが、最近の映画館はこんなものでしょう。上映されていた岐阜柳ヶ瀬シネックスは、平成6年に完成した再開発ビル。映画館の旧岐阜劇場を引き継いで建設されました。除却費に2/3の補助金が出るのが、事業を後押し。柳ヶ瀬の立地上、湧き出す地下水への対策が必要な難工事でした。当初4つあったシネマコンプレックスも今は3館に。その一つは、大衆演劇の劇場(葵劇場)に生まれ変わっています。昔の本来の劇場に戻ったようで、これはこれでありかと・・・。

一時は、柳ヶ瀬に11館がひしめいたという映画館は、現在、ロイヤル劇場と西柳ヶ瀬の朝日映画劇場の3館のみ。幼いころ、父と入った映画館は、立見席で、空気も悪く、早々に外へ出た記憶があります。確かSF作品だったような…。その後、小学生の時に、母と兄と見たジョン・ウェインのアラモの上映館は、衆楽館でした(現在は無印良品)。感動の余韻に浸りながら館を出ると、町はとっぷりと夕闇に覆われていたのが、印象的でした。

2025.4.7 春爛漫の里山 満開のカタクリ

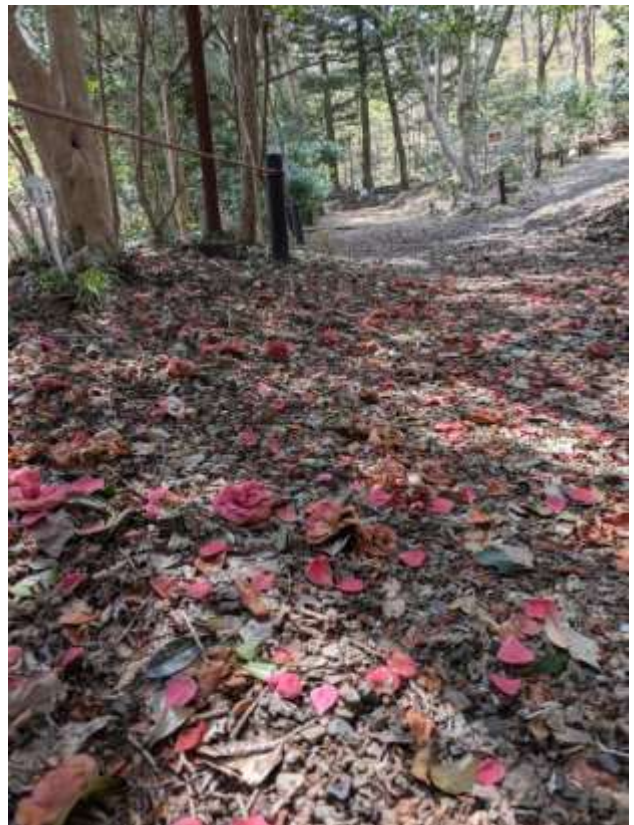


栗野のまちに隣接する畜産センター公園は、春真っ盛り。管理棟裏から少し入った山際の林の中に群生するカタクリが満開を迎えました。春の妖精・ギフチョウも舞っていました。

里地里山のテーマパークとも言える畜産センターの再整備計画案が発表されたのは年の初め。まちづくり協議会からも、パブリックコメントを提出しました。この地域の拠点施設を、みんなで大切に育んでいきたいですね。



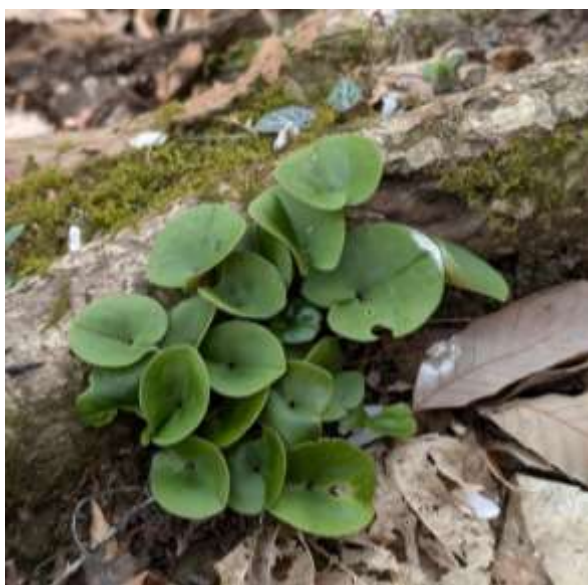
▲管理棟の裏手の白い2階建ての建物を左折して、ゆるやかな山道を少し上った場所に群生地が…



▲椿の花が落下する道を踏みしめながら、「椿の森」を右に見て…



▲カタクリのほかにも、ユキワリイチゲなどの珍しい山草が見られます



▲山道にもギフチョウの食草のカンアオイが生えています



▲コバノミツバツツジが春風に揺れる…



▲満開の桜越しに畜産センター公園から見る眉山

2025.4.9 日本三大仏



4月9日は「大仏の日」。奈良の東大寺にある大仏（盧舎那仏）の開眼供養が行われた日（752年）に由来しています。東大寺の大仏は、高さ約15メートル(台座を含めると18m)、重量は約250トンの青銅製の仏像です。

よく言われる日本三大大仏は、東大寺と鎌倉(高德院 18m)の大仏はどの時代においても異論のないところ。3番目の候補はというと、最大6カ所の大仏さんが挙げられています。高岡(大仏寺 1933年再建 15.85m)、兵庫(能福寺 1991年再建 18m)、千葉県(日本寺 1783年、1969年修復 31m)、茨城県(牛久市 1992年・立像 120m)、東京(乗蓮寺 1977年 12.5m)、秋田県(長谷寺 1896年再建 9m)そして岐阜大仏(正法寺 1832年 13.63m)など…候補は、地元びいきもあって、少なくありません。

金華山の麓にある岐阜大仏は、「軸組の周辺に竹木舞（たけこまい）を組んで土壁下地で大まかな形を作り、その上に反故紙（ほごし、版本経典などを解体した和紙）を貼り付け、漆を塗り金箔を施すという作り方でできています。竹で籠（かご）を編むように下地を編んでいることから、籠大仏（かごだいぶつ）とも呼ばれています。この作り方では日本一大きい仏像です。」（岐阜市ホームページより）。

岐阜提灯や和傘で有名な岐阜ならではの仏様です。以前、竹と紙でミニチュアをこさえて、土産にしては、と提案したことがあるのですが、残念ながら、実現していません。

子どものころ、父に自転車で連れられて初めて対面しました。父との思い出の場所です。当時は、勝手に境内に入り、無料で拝観できたような気がします。

話は戻りますが、いずれをもって三大大仏とするかは、意見の分かれるところですが、完成した時期、独特の製造方法も反映してか、岐阜大仏は、平成29年に放映されたGoogleのTVCMで日本三大大仏として紹介されたようです。岐阜市の大切な宝の一つと言えるでしょう。

2025.4.22 廃墟ウォッチャー



▲見直し後の駅北口ツインタワービル完成予想図



▲当初計画のパース図



▲当初計画の際のパース図。右奥は岐阜城のある金華山。

資材高騰、人手不足の影響で、完成時期と計画が見直されました。2022年2月末時点の計画では、西地区が34階で130mクラス、東地区が32階で120mクラスで2028年度完成予定でした。

今年2月3日に着工延期が発表され、同月14日のいち早い見直し発表では、西側が20階程度に縮小し、完成は東側29年度、西側30年度の予定とか。いずれにしても岐阜駅周辺の景観、名古屋まで20分足らずの立地を生かした居住需要に大きな影響を与えることは間違いありません。

一方、中心市街地（コア）のみならず、多様な地域核の形成も、すでに市街地形成が進んだ岐阜市では重要です。全国一律の金太郎飴的なコンパクトシティ志向に偏り、周辺地域を軽視し、郊外に低家賃集合住宅を中心とするダウンタウンを形成してはなりません。地域特性を生かした厚みのある市の魅力を醸し出し、より良い住環境を目指す都市計画が必要です。

もとより、地域を良く知る住民が、あるべき方向性を描き、忖度のない客観的な視点のもとに、政策や都市計画のプロにならなくてはなりません。

そんな意味からも、私たちの地域の畜産センター再整備は、北部、東部の里地里山にとって、格好の素材になりそうです。

ところで、市街地再開発地区は、高度な土地利用・防災対策が望まれる中心市街地にもかかわらず低層階、木造家屋も建ち並ぶエリア。老朽化が進み、シャッター通りはもちろん、廃屋も見られます。少し前になりますが、NHK2月14日放送のぎふスペシャルで、駅前繊維問屋街、柳ヶ瀬の街並みを特集していました。廃墟をこよなく愛するウォッチャーが登場したり、保存活用し、観光資源にしようとする取り組みも紹介されていました。

郊外部では、面的に廃墟化すれば再開発の余力もありませんし、資源として活用するなどありえないことでしょう。すでに空家も目立つようになっています。

畜産センターのような拠点施設を中心に、かつ再整備を契機に自然環境と調和した住環境の形成と緑地保全を、みんなの力を合わせ、地域と行政との協働で進めたいものです。宅地化が進展する今、タイムリミットは迫っています。



▲岐阜駅北口の景観。再開発ビルは、真ん中両端に位置



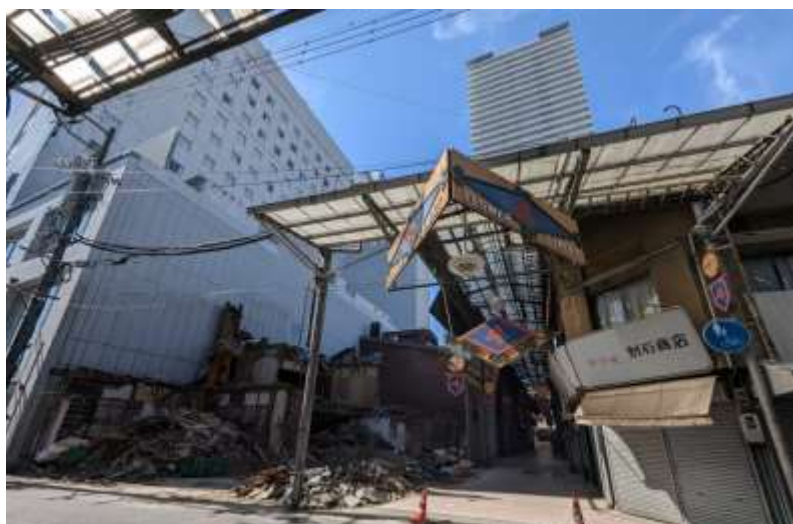
▲左の写真の左のビルのすぐ東側にある問屋街へのアーケード入り口。



▲問屋街へ足を踏み入ると、シャッター街



▲問屋街一条通りから見上げる再開発ビル



▶木造家屋が取り壊されていました

2025.4.25 鳥



鳥(カラス)の巣が、電柱のてっぺんに。停電の原因になる、子育て中は気が荒くなるなど、電力会社や行政からも、問題視されています。春先からが抱卵が始まるらしい。この巣も、中から鳥の声がするから、卵を温めているのでしょうか。中部電力では発見した場合は、連絡を呼びかけています。ゴミ置き場を荒らしたり、屋根のボルトを抜いたり、悪行が目立つ鳥だけど、可愛い七つの子がいるかと思うと、巣立つまで連絡をためらってしまうのも理解できますが…。その後、5月には除去されていました。



▲ゴミ集積場に普及してきた収納ボックスの上で鳴いています



▲電柱の上で鳴く雄と雌?



▲月に向かって鳴くのも電柱のてっぺん



▲飛行機雲を見上げてる?



▲鯨のユッケ(左)とさらし鯨(右)には、焼酎の水割りが合います。

近くのスーパーの広告を見て、生鯨(ユッケ)とさらし鯨(尾びれを薄切りにし、脂肪分を取り除き、冷水にさらした品)を買ってきました。国際的には肩身の狭い食品ですね。

全面的に鯨漁が許されていた時代、シロナガスクジラの尾の身の刺し身は、毎日腹一杯食べても飽きない究極の食べ物である、と語る捕鯨船員の記事を読んだことがあります。給食で空揚げを食べた高齢者は多いはず。私が子どものころ、ステーキ用のクジラ肉は、1枚50円でした。アンパンが10円ちょっとですから、比較的安価なご馳走ではありました。

潮の吹き方で種類を見分けられるという鯨の漁師も今は昔。現在、ノルウェー、アイスランドのほか、わが国も商業捕鯨を、再開しているもののクジラ肉の需要は減少。ますます肩身が狭くなるばかり。

世界最大の生き物であるシロナガスクジラは、捕獲禁止にもかかわらず未だに数が増えていないとか。

さて、犬食文化の国も、アジアやアフリカなどにいまだにあるそうです。決して極端な話ではないでしょう。さらに、30年も前だったでしょうか、市内の焼肉店で食事した後、忘れ物をしたことを思い出して店に戻ると、調理場に犬の頭が置いてあったとか。真偽のほどは定かではなく、ちょっとした都市伝説に近いものがあります。以前にも書いたことがあります、子どもの頃の縁日の串カツを買い食いした私に、祖母が、何の肉かわかったもんじゃない、と強い口調で言い放ったのは、経験を踏まえたことだったのでしょう。美濃の赤犬がうまい、という話もありましたし。犬を食べるなんて、とても考えられない。何匹もの犬を飼った経験のある私は、聞いただけで吐きそう…じゃあ馬肉は？

味の素が世に出たころ、こんな話がまことしやかに流れました。「未開の部族に、味の素を食べさせ返事が、『美味しい、人間みたいな味だ』と」。

日本の食文化を語る上では欠かせない鯨ですが、とりわけ食にまつわるだけに、様々な意見が、真剣に語られるのは当然です。

「食文化と動物福祉」は、これからの人の生き方や社会の在り方について、きわめて奥深いものがあります。稿を改めて、いつかまた綴りたいテーマです。

2025.4.28 鯉



近年、すっかり姿を見かけなくなった鯉のぼり。栗野西で発見!!

薫風に吹かれ、大空に見事に泳ぐ鯉のぼりは、すがすがしさと喜びを味あわせてくれます。

神の使いであり、立身出世の縁起ものでもあり、夫婦円満の意味もある、まさに神聖な生き物とされています。栗野東の神明神社では、5年ほど前まで、春の例祭に生きた鯉をお供えしたそうですね。畜産センターから借りてきて、お供えした後、生きたままセンターにお返ししたらしい。

住宅事情や、電線を気にして、大きな鯉のぼりは絶滅危惧種になりかかっています。一方、ベランダや小庭に中型の鯉のぼりは少数ながら、まだまだ頑張っています。一方、数年前まで唯一掲揚されていた地点ののぼりは今年は、見当たりません。お子さんが大きく成長されたのでしょうか。子供たちの成長の喜びを、地域で分かち合いたいもの。ところで、鯉のぼりを禁じた自治体があったそうな。互いの見栄の張り合いを危惧したらしい。



▲青空と新緑に映えて泳いでいます



▲ベランダで伝統文化をつなぐ

▶生きた鯉をお供えした栗野東の神明神社。お宮さんと呼ばれていました



2024.5.1 路傍の花～その 8～ 「似た者同士⑤」



▲初対面となったマメグンバイナズナ



▲グンバイナズナも強健そのもの

注意深く見ているつもりでも、見過ごしている種類もあるものです。上の左写真は、マメグンバイナズナの小さな花。明治時代中期に渡来したらしい。同じく明治時代にやってきたグンバイナズナより、軍配型の果実が小さいことに由来した和名です。

もともとのナズナも、北半球にひろく分布し、帰化植物と考えられていますが、春の七草の一つにも挙げられているように、かなり古い時代から日本に定着しています。

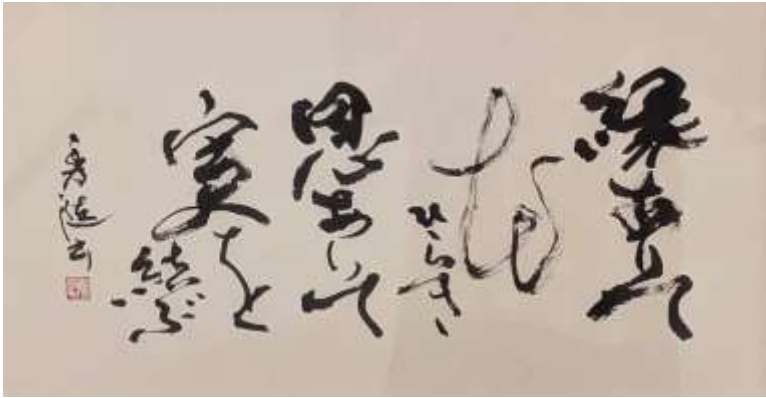
ご存知の通り、別名、ペンペン草ともシャミセン草とも言われます。果実を少し下に引っ張って、ブラブラさせてから茎を振ると、シャリシャリと鳴ります。懐かしい草遊びの一つですね。

言うまでもなく、七草がゆにも欠かせない食材で、若葉を使っておひたしや汁の実にと、かつては冬の貴重な野菜でした。生薬としても用いられるなど、野草利用理として見直したい植物の一つです。ちなみに、グンバイナズナは、苦みがあるものの、サラダやサンドウィッチに用いることがあるそうです。マメグンバイナズナは、貧者の胡椒と呼ばれ、若葉のところにサラダや香辛料として用いられるらしい。試したことはありませんので、食べる場合は、文献を参考に、自己責任で…。



▲古くから親しまれてきたナズナは、前の2種よりも清楚な気がするのは私だけ？

2025.5.12 書



小学校の同級生(半世紀以上前の旧友)のお誘いで、書道展「調墨会 20 周年記念展」に出かけました。会は、平成 17 年に大沢碧水先生の元門下生が、漢字かな交じり書研究会の立ち上げを提案し、「この指とまれ」と呼び掛けて始まったとのことです(岩野田北まちづくり協議会の「この指とまれ」方式のまちづくりを思い起こさせますね)。出展作品の一つひとつに込められた思いが、心に共鳴するものでした。

同時に自身の子どものころの記憶がよみがえります。小学校の 3 か 4 年生でしたか、母に手を引かれ手を引かれ、同級生(案内を送ってくれた同級生とはまた違う人)の親父さんの書道教室に、一度だけ伺ったことがありました。結局、何につけても習い事が性に合わない私です、それっきり行くことはありませんでした。あの時通っていたらば…後悔先に立たずです。

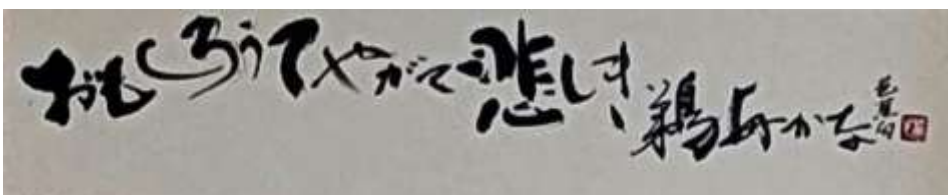
そんな私が、もう 15 年も前のこと、岐阜グランドホテルで開かれた岐阜県書作家協会の互礼会で、今は亡き、座馬井邨(ざんませいそん)先生、後藤秀園先生のお隣に座する機会がありました。その時の印象が脳裏に刻まれています。書の大家に対してはなはだ失礼ですが(お許しください)、
「書は人を生む」・・・そんな印象を受けました。笑顔の後藤先生に向けて、書体に一目ぼれしました、などと申し上げたり、座馬先生が、私の本名は、「乙丙」なのです、と名刺にボールペンで書かれたりと、その時のことが、今も鮮明に思い浮かびます。

今回の書道展を鑑賞し、改めて、筆致に宿る命の躍動感、長い歴史の重みを感じました。

母は、晩年、写経の日々を送っていたことも、思い出しました。

書に接し、心の底を揺さぶり、記憶をたどる機会を与えてくれた旧友に感謝です。

ちなみに、岩野田北公民館に習字のクラブサークルがないのは残念至極。子どもたちにも、もっと書に触れる機会や、日本文化を体験する場を確保しておきたいものです。



▲珍しい横書きの書。これも同級生の作。そう言えば、昨日は鵜飼開き



▶談笑しながら、ボールペンで本名を書き添えられた名刺(平成 20 年 11 月 16 日)

2025.5.14 団地を1周



▲エゴノキの花を見上げて・・・

完成してから 25 年の時が経った栗野台の団地。300 世帯近い大規模団地です。開発前は、すでに丘陵の一部が削り取られていましたが、ウサギ、キジなどが出没し、まだまだ自然は残っていました。あれから四半世紀、長閑な栗野の里地里山は、大きく変貌を遂げました。余談ですが、完成してすぐに下水道が整備され、団地の集中浄化設備、貯水槽は無用の長物に。開発担当者も嘆いていましたが、事業費は、当然、分譲価格に跳ね返ったはずです。

大がかりな貯水槽をわき目に、団地を散策、1 周しました。距離にして 2km 程度、時間にして 30 分といったところ。

足元に、花びらが(トップ写真)。何の花かと見上げると、エゴノキが満開です。しばらく行くと、ソヨゴがつぼみを付けています。冬になれば真っ赤な小さな実を付けます。団地の西ブロックの脇には、まだ林が残っています。

おや、樹陰にハチクが開花しています。120 年に一度の珍事。ここ数年で、畜産センターの近くに始まり、栗野、佐賀方面の竹林へと移ってきました。日陰にある背丈も低い 3cm の太さがあるかどうかの未熟とも思える竹ですが、雄しべを垂らすように、しっかり開花しています。

自然や田畑を計画的に配置し、安全・快適な住環境を整えることが、都市基盤としてのまちづくりの基本であるはずです。

栗野台は、里山との連続性が多少残されている一方、里地の田畑、緑地は、どんどん消滅していきます。集合住宅の増加する半面、空家となった 1 軒家は増えています。都市計画の見直しとともに、空家のリフォーム活用、緑地の保全は地域としての課題の一つと言えるでしょう。



▲ソヨゴのつぼみ



▲120年に一度のハチクの開花も



▲栗野台の一番西側は林が連なります



▲北公園は道を挟んで山県市に隣接



▲山県市側から見た北公園。右の西ブロックの林から、鶯の鳴き声が聞こえてきました



▲コミバス“ぐるっとバス”の走る道の向こうが東ブロック



▲東は、国道 256 号



▲南側は宅地開発前に建った住居が並ぶ。右の集合住宅は開発後に田を造成して建築。この角度から撮影すると、まだ田が残っている



▲同じ角度から見た団地開発前の風景(昭和 63 年頃)



▲開発前の東ブロックの丘陵(昭和 54 年・栗野台南の新築家屋の地鎮祭)

栗野台南の南面の当時の地名は「岐阜市大字栗野字段知洞〇番地」(昭和 56 年 2 月に住居表示の変更により現在の栗野西 7 丁目〇番地に)。栗野台の小字は「朝鮮野」

2025.5.15 メディアコスモス開館 10 周年



▲エスカレーターで2階の図書館へ

2015年(平成27)に開館した「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、今年度10周年を迎えました。岐阜大学医学部跡地の整備計画として持ち上がった時は、柳ヶ瀬など中心市街地に、より集客力のある用途を求める声が少なくありませんでした。図書館への見方は、決して好意的ではありませんでした。しかし、伊東豊雄氏設計による魅力あふれる建物と快適な空間は、1年間で120万人を超える来館者をもたらしました。その後、岐阜県出身の物理学者・益川敏英氏を名誉館長に迎えています。

東京はじめ全国でも話題を博したメディアコスモス(公募で採用されたもともとの名称)。いつか運営費など現実的な問題に直面するかもしれませんが、世代を超えて人々が集まるこの施設を、岐阜市の宝の一つとして成長を続けていってほしいと思います。

ちなみに、1階には、まちづくり活動の支援等窓口の市民活動交流センターが開設されています。

そして、岩野田北地区の市の担当職員が、メディアコスモスの現館長さんというのも、心強い限りです。【メディアコスモスの外観の写真の右にあるのは、旧県庁舎。サウンディング型市場調査による活用方法を秋までに模索すると言う。】



▲世界初と言われる木材が波打つ天井と換気・採光・コーナー区分の役割を果たすグローブ(天蓋)



▲市民活動交流センターに配備されている紙媒体の情報書架

2025.5.16 岐阜公園



昨日の日記のメディアコスモスが、岐阜市の新しい宝なら、1300年以上の伝統を持つ鵜飼(うかい)は、古から引き継がれた宝。30年前には、岐阜の一枚看板のような紹介も口に上りました。その鵜飼が行われる長良川左岸に位置するのが岐阜公園。明治21年(1887年)に開園され、岐阜城を見上げる園内には古木が立ち並びます。開園前のこの地で暴漢に襲われた(1882年)、板垣退助の像があることでも有名です。

今年4月26日にオープンした岐阜城楽市は、お土産や食事ができる11店舗が軒を連ねています。平日にもかかわらず、賑わいを見せていました。

もともと岐阜公園周辺は見どころが満載。新たな魅力を加えながら、岐阜の宝としての磨きをかけてほしいものです。



▲行楽日和、平日早朝にもかかわらず多くの人出が



▲昔から営業している田楽屋



▲樹齢200年と言われるオガタマの古木



◀金華山の名の由来のツブラジイの花は、ピークを過ぎていました

2025.5.20 ぎふのソウルフード



もともと奴隷としてアメリカに連れてこられた南部のアフリカ人のこさえた支給された料理が、ソウルフード。しかし、日本では、郷土料理や家庭料理などローカルフードを指して用いられるみたい。しかし、むしろ、外食してでも、時折食べたくなる思い出深い一品（主に炭水化物）という方がしっくりする気がします。岐阜市内でも、そんな品々をいくつか思い浮かびます。昭和3年に柳ヶ瀬で開業し、私が通った京町小学校（現在は清流中学校）の東で営業している「更科」の冷やしたぬきそばもその一つ。ただ、ソウルフードと呼ばれ、広くメディアに大きく取り上げられるようになったのは、わずか5年ほど前。コンビニでも販売されるようになりました。どういうことなのでしょうね。岐阜市は長野県などと比べて、そば処ではないのも一因なのではないでしょうか。久しぶりに訪ねてみました。ソウルフードと呼ばれ始めてからは、初めてです。注文してすぐに運ばれてくるのは昔のまま。気のせいかな、麺がやや硬めになったこと、お揚げが小さめで、つゆ嗜好とともに甘めになり、しょうゆ辛さが薄れたような。若い世代の嗜好に合わせることも必要ですし。

やはり麺類になりますが、平成の初めの頃、柳ヶ瀬のビルの地階のグルメ街に、コーレというスパゲッティ屋さんがありました。あんかけスパの店で、昼は満員でした。ヒレカツスパがおいしかったですよ。今は、名古屋飯として、あんかけのレトルトがいくつかのメーカーから販売されています。

最後に、同じく炭水化物系で、通称、ねぎ焼き。別名をなぜかヨウショク（洋食?）と言いました。昭和30年代初め、1枚5円でした。1円玉でおはじき遊びをした後、自宅近くの駄菓子屋のねぎ焼きを食べに行ったのですが、手の中には4円しかない。泣く泣く4円で買える駄菓子を買って帰った記憶があります。

あなたの魂を揺さぶるソウルフードは？ 栗野のソウルフードはあるのかな？



▲平日、午後1時になっても混雑していました



▲レトルトの案がスーパーで手に入ります



▲チキンカツが合います。餡は濃い目なので控えめに

2025.5.26 路傍の花～その 8～ 「似た者同士⑥」



▲お馴染みのヒメジョオン



▲ピンクに染まると区別
がつきやすいハルジオン

道端に楚々と花開く北アメリカ原産のヒメジョオン(姫女苑)は、「繁殖力が強い」ため、侵略的外来種 100 に選定される要注意外来種。江戸時代末期にやってきたとされます。

一方、ピンク色の花をつけるハルジオン(春紫苑・ハルジョオンとも言う)も、北アメリカ原産。注目すべきなのは、ハルジオンは、どこに生えていてもピンクというのではなく、きれいな空気の中で育ったときだけ。排ガスの影響を受ける道路わきでは、白い個体になります。色が同じとなると、ヒメジョオンとの区別が難しい。

ハルジオンは、花弁が細く、チリチリした感じ。葉のつき方も違いがあって、茎を包み込むような感じ。茎を折ると、ヒメジョオンはぎっしりと中身が詰まっているのに対して、ハルジオンは、中空(別名、貧乏草の名の由来)なので見分けがつくことになっていますが…なかなかむづかしい。朝早くは、ヒメジョオンの花は開ききっていないので、花弁での区別がつきにくい。

それはさておき、ピンク色のハルジオンも多く見られる栗野は、空気がきれいな証拠。うれしいですね。

そう言えば、松任谷由実の歌に「ハルジョオン・ヒメジョオン」があります。ところが、ヒメジョオンの名前は登場するけれど、ハルジョオンが歌詞に見当りません? ここからは勝手な想像。「紅く」という言葉が4回も出てきます…夕陽を受けた景色などはみんな紅い(ハルジョオンも紅く咲いているのでしょう)のに、私だけが白い…ヒメジョオンそしてユーミンの気持ちが込められているのでしょうか?

両者の違いを観察しながら散歩していると、突然、ヘラバヒメジョオンに初遭遇(他の場所ではあまりお目にかかりません)。一回り小ぶりの花で、葉は、へら状の細長い形状。ヤナギバヒメジョオンというヒメジョオンとの交配種があるとも言われていますが、この違いは、情報が少なく、詳細不明です。これから先、栗野の植生はどんどん変わっていくのかも知れません。まして、宅地開発でそもそも見られなくなる品種もあるかもしれませんね。



▲白花のハルジオン…花卉が細く縮れているのが見分けるコツ



▲ヒメジョオンの葉は、のこぎり状のギザギザがあります



▲ハルジオンの葉の根元は、茎を包み込む



▲初対面のヘラバヒメジョオンも登場



▲花は小さめ、たたずまいも違うので、発見できました



▲ヘラバヒメジョオンはヘラのよ
うな派なので分かりやすい

2025.5.28 路傍の花～その 9～ 「似た者同士⑦」



スイバとギシギシ、雰囲気似ていますよね。赤みがかった穂状の花や実を付けるのがスイバというイメージですが、青い穂のスイバや赤みがかったギシギシの個体もあるらしい。そんな時は、葉を見てみましょう。茎を包む込むような葉であればスイバ、茎から葉柄を伴っていればギシギシです。これで完璧!?

そのギシギシにも、近縁種にヨーロッパ原産の帰化植物のナガバギシギシがあり、粟野にも普通に自生していて、外見だけでは区別が難しい。葉が波打っているのが帰化植物らしいけれど、確実なのが、実。ギシギシはギザギザが縁にありますが、ナガバギシギシにはないというもの。ちなみに、コギシギシやナガバコギシギシ等々様々な雑種が存在するそうで、こんな個体も生息しているとすると、一筋縄ではいかない・・・。

一方のスイバにも、ヒメスイバがあつて、名前の通りスイバより小型で、葉の形が誇状で違いがあるほか、根茎を横に伸ばして増えるとか。

いずれにしても、スイバとギシギシを判別してから、次のステップに移りましょう。頭の体操にはなりますが、くれぐれもストレスにならない程度で気長に観察し続けてみてくださいね。ちなみに、スイバは雌雄異株。

スイバとギシギシ…これだけでも研究論文が書けそう?!



▲ギシギシに密(名の由来は、また別のようです)している実の縁にギザギザがあるギシギシ



▲ややまばらな実にギザギザがないのがナガバギシギシ



▲スイバの葉は、波打たない

▶これはギシギシか、ナガバギシギシかどちらかなあ? 緑が濃く、より波打っている葉がナガバギシギシとは言うけれど・・・



▲色合いと中央に種のふくらみがないことでスイバと判明



▲宅地化間近の休耕田に生えた、つやつやの野菜のようなギシギシの株。食べたくなりませんか？

2025.5.30 路傍の花～その 10～ 「似た者同士⑧」



▲群生して開花しているノビルに出会いました

野草の区別がつかなくても、別段支障がなければ、困ることもありません。が、一方は食べられる野草、片方は毒がある、となると大問題。

味噌を付け、ラッキョウのような味が楽しむことができるノビル(葉と球根を古代は食べていたらしい)。摘んで食べるのを躊躇した理由は、複数の異変。1つ目は、堤防にアリウム仲間が自生していたこと。通常、毒草のスイセンとノビルを間違えないよう注意喚起がなされるけれど、両者は花も葉も別物。ところがアリウム・ロゼウムは、花がそっくり。普通は庭の花壇で楽しむ品種なのだけれど、鳥羽川堤にいっぱい生えていて、2週間前に満開だったのを目にしました。

2つ目の異変。ノビルが一斉に満開に。群落で開花していました。花の時期はアリウム・ロゼウムより遅めです。ノビルは頭頂部にムカゴを付け、増えるので、結実するために開花の必要がないからでしょうか。あまり見かけません。

仮説ですけど、堤防は栄養分がないためか、掘り起こしてみると、盛んに分岐するはずの球根(鱗茎)が一つしかありません。花茎の先端にできるムカゴが重要な繁殖手段となりますが、種もつけようとして開花したのではないのでしょうか。

ノビルに間違いないと思うけれど、食べてはいけない、と止められてしまいました。ちょっと迷うなどと、言わなければよかった。



▲普通見かけるのはこんな感じ・・・田畑の周囲では草刈が行われるため、種よりもムカゴと鱗茎で効率よく繁殖するためとの説も



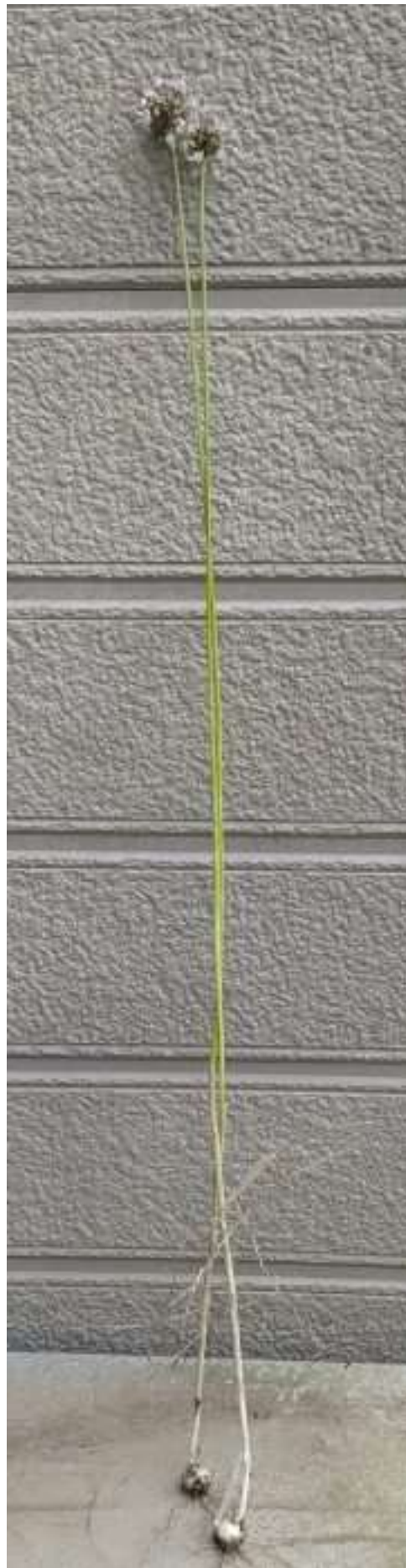
▲こちらが、アリウム・ロゼウム・・・ちょっと見では見分けが困難でしょ?! 葉はやや幅広です



▲2週間前、ノビルの近くで群生していたアリウム。黄色の花は、悪名高きオオキンケイギク



▲ムカゴから芽を出している個体も



▲80cmほどにも伸びた花径。葉が枯れているのも見分けにくかった理由です

これ以降の日記は、現在編集集中です。